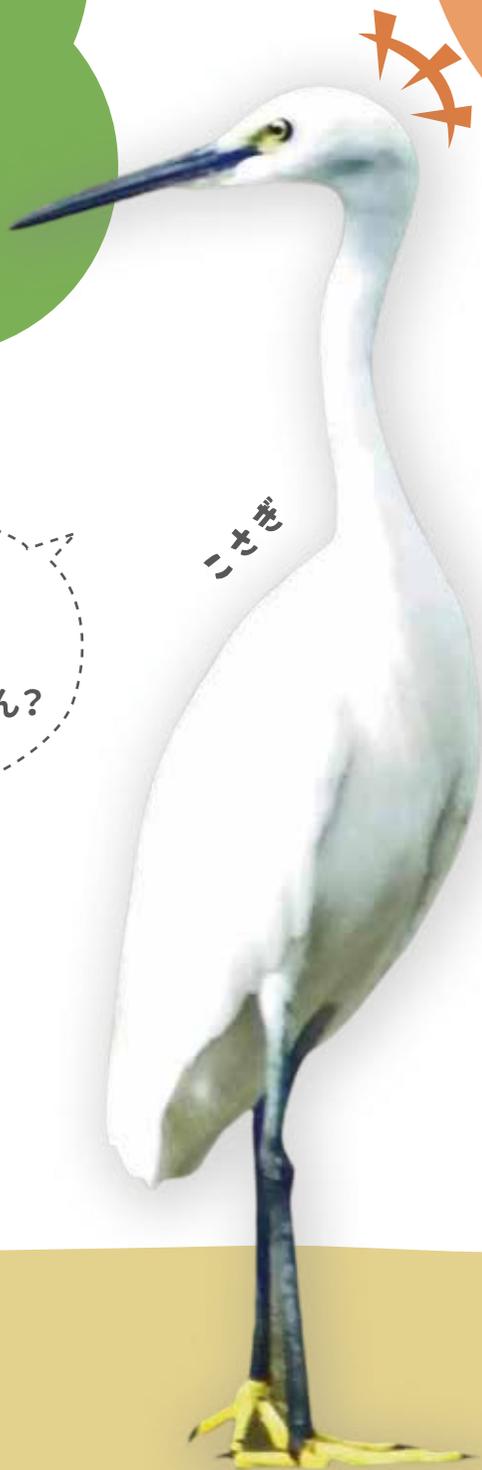


あだちの 野鳥

区内で会える野生の鳥たち

この本を持って、
近くの公園に
おでかけしません？



はじめに

足立区では、年間を通して約70種類もの野鳥を観察
することができます。

いつも散歩しているあの道も、何気なく通り過ぎて
いるあの公園も、実は野鳥たちの憩いの場所かもしれ
ません。



この冊子を持って、

足立区内の野鳥を探しに、さあ出かけましょう！

もくじ

	やちょう ほか せいぶつ かか 野鳥と他の生物との関わり	4
	やちょう あだちの野鳥のために まも かんさつ 守ろう! 観察マナー	5
	へ 減りつつある あだちの野鳥	6
	くない 区内のバードウォッチングポイント	8
	バードウォッチングの基本	12
	み やちょう あだちで見られる野鳥	13
	さくいん	29

野鳥と他の生物との関わり

みなさんは「食物連鎖」という言葉を知っていますか？
一口に野鳥といっても、その生態は様々。野鳥は、その種類によって捕食者にも被食者にもなるのです。
野鳥は他の動物や植物と、繋がりがあって生きています。



あだちの野鳥のために 守ろう！観察マナー

野鳥と人間がWIN²(ウィンウィン)な関係であるために、
観察する際は自分本位ではなく、次のルールを守って観察
しましょう。

1 餌付けをしない

「近づいてみたい」、「いい写真が
撮りたい」などの理由で、過度に
餌付けをする行為はやめましょ
う。餌付けによって、自分で餌が
と取れなくなる個体もいます。

2 鳥との距離を保とう

適切な距離は鳥によって異なり
ますが、鳥が逃げたらストレス
を与えている証拠です。
撮影・観察するために近づき過
ぎないようにしましょう。

3 繁殖期には 巣に近づかない

特に抱卵や給餌の時期は巣に近づ
きすぎではいけません。親鳥が危
険を察知して巣を放棄してしまう
可能性があります。

- ※1 親鳥が卵を抱き温めること
- ※2 親鳥が幼鳥に餌を与えること



幼鳥に給餌するツミ



チョウゲンボウの幼鳥

減りつつある あだちの野鳥

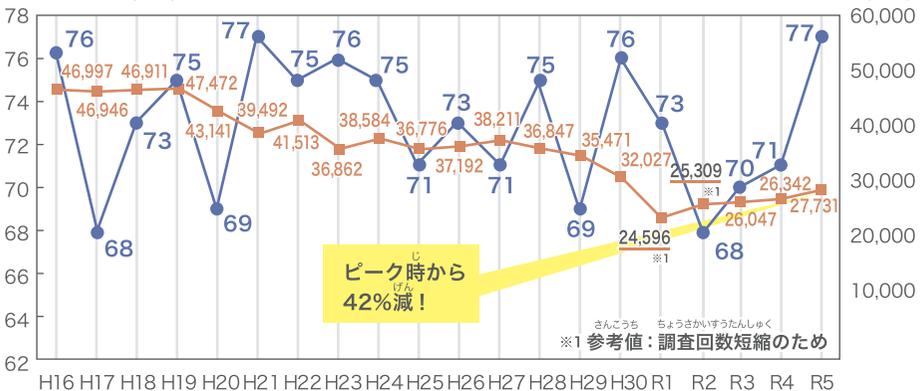
あだちく へいせい ねんど くない わ
足立区では、平成4年度から区内を40のブロックに分けて
しゅすう こたいすうとう ちょうさ あだちく やちようせいそく ちょうさ けいそく
種数・個体数等を調査する「足立区野鳥生息調査」を継続
じっし
して実施しています。

■種数はほぼ横ばいも個体数は減少傾向（足立区野鳥生息調査より）。

へいせい ねんど れいわ ねんど ひかく かくにんこたいすう やく げんじよう
平成19年度と令和5年度を比較すると確認個体数が約42%減少して
います。

● 確認種数 (種)

■ 確認個体数 (羽)



■足立区野鳥生息調査を担う、「野鳥モニター」になる



あだちく やちようせいそく ちょうさ にな やちよう
足立区野鳥生息調査は約40人の「野鳥モニター」
のご協力により実施しています。

野鳥モニターとは？

- 区内担当地域で野鳥の生息調査をするボランティア。
- 年間6回（奇数月）調査を行う。
- 欠員が生じた場合（原則として年度末）「あだち広報」や区のホームページで募集する。

■あだちの野鳥のために、あなたにもできる、こんなこと

ひごろ せいかつ つぎ 日頃の生活で次のようなことを心がけ、あだちく やちよう
まも 足立区の野鳥を
守っていきましょう。

1 ペットは最後まで
責任を持って飼おう

とり かぎ 鳥に限らず、どんなペットでも
さいご せきにん も 最後まで責任をもって飼いま
しょう。むやみにペットを野生
はな せいたいけい くず になつと、生態系のバランスを崩
おそ 壊してしまう恐れがあります。

2 足立区を野鳥の
住みやすい街にしよう

にわ 庭やベランダのちょっとしたス
ペースに、はな き みずくさ 花や木、水草などを
そだ 育てることで、鳥の食べものを
ふ 増やすことができます。

3 地球にやさしい
か 買い物をしよう

かんきょう はいりょ しょうひん えら 環境に配慮した商品を選ぶこと
も、ちきゅう かんきょう まも やちよう 地球の環境を守ること、野鳥
を守ることに繋がります。左右の
まも つな さゆう マークも、しょうひん えら 商品の目印
になります。



▲森林や生態系などの保
ぜん きび きじゆん み 全など、厳しい基準を満
たした農園にのみ与えら
れる「レインフォレスト・
アライアンス認証マーク」



▲適切に管理された森
りん もくざい せいひん 林の木材から製品が
つ くられていることを示
す「FSCマーク」

くない
区内の

バードウォッチングポイント

区内には多くの公園があり、様々な野鳥を観察することができます。
その中から、代表的な公園をご紹介します。



【かんりやくず
簡略図】

ポイントの特徴



まちなか
街中



ちしょう
池沼



おがわ
小川・河川



じゅりん
樹林



くさち
草地

観察できる主な野鳥



ことり
小鳥



もうぎんるい
猛禽類



サギ



カモ

1 舎人公園（舎人公園、西伊興町ほか）



区内1番の観察スポット

一年を通じて区内で、1番多くの野鳥が観察できる。時によっては1日30種以上を確認できることも。観察しやすい「バードサンクチュアリ」もある。



2 桑袋ビオトープ公園（花畑八丁目2番2号）



生きもののオアシス

生きものが集まるハス田、浮島を備えたビオトープを整備。自然解説員も常駐している。双眼鏡の貸し出しもある。



3 神明六木遊歩道（六木三丁目52から神明一丁目12）



古木に響く鳥のさえずり

江戸時代に植えられたケヤキやスダジイなど多くの樹木が並ぶ垢川沿いの遊歩道。夏にはセミの羽化の観察もできる。



4 佐野いこの森緑地（佐野一丁目31番11号）



鳥と人との「憩いの森」

多種、多数の樹木があり、秋にはたくさんのドングリをみらせる。森を散歩しながらコゲラなどの野鳥に出会える。



区内のバードウォッチングポイント

5 都市農業公園 (鹿浜二丁目44番1号)



野鳥観察だけじゃない

夏期を中心にダイサギやアオサギなどが観察できる。園内で栽培した無農薬野菜を使うレストランや四季折々の花も魅力。



6 新田わくわく♥水辺広場 (新田二丁目・三丁目地先)



木道から自然に触れあえる

池や湿地、草地といった多様な環境で、さまざまな生き物を観察できる河川敷の広場。木道も整備されている。



7 千住新橋緑地わんど広場 (足立一丁目・二丁目地先)



時にはハヤブサも!

草地やワンド、干潟などが多様な生き物を育てている。オオヨシキリや、ときにはハヤブサなども観察できる。



8 元漕江公園 (保木間二丁目17番1号) 【生物園】



「生物園」のある公園

生物園が併設されている公園。サクラやメタセコイアをはじめとした多くの樹木が楽しめる。池にはカルガモの姿も。



9 ^{めまこうえん} ^{やなか} ^{にちようめ} ^{ぼん} ^{こう} しょうぶ沼公園 (谷中二丁目4番1号)



^{がつ} 6月に「^{かいさい}しょうぶまつり」開催



^{しょうぶだ} ^{やく} ^{ひんしゅ} 5つの菖蒲田には約 140 品種

8,100 株のハナショウブが。

^{えんない} 園内のせせらぎにはカルガモ・

^{すがた} ^み オナガガモの姿が見られることも。



10 ^{ひがしあやせこうえん} ^{ひがしあやせいち} ^に ^{さんちようめ} ^{あやせさん} ^こ ^{るくちようめ} ^{やなか} ^{いっちようめ} 東綾瀬公園 (東綾瀬一・二・三丁目、綾瀬三・五・六丁目、谷中一丁目)



^{まち} ^{かんさつ} 街ナカ観察スポット



^{こうえんにしがわ} ^{さんぼみち} ^ぞ 公園西側の散歩道沿いに、か

^{のうぎようすい} ^い つでの農業用水を活かしたせ

^{なが} ^{ほうぶ} せらぎが流れている。豊富な

^{しょくぶつ} ^{やちよう} ^{かんさつ} 植物や、野鳥を観察できる。



11 ^{みぬまいしんすいこうえん} ^{とねり} ^{よんちようめ} ^{ぼん} ^{こちやほんちよう} ^{よんちようめ} ^{ぼん} 見沼代親水公園 (舎人四丁目5番から古千谷本町四丁目8番)



^{おやこ} カモの親子がすぐそばに



^{みずべ} ^{つど} ^い ^{もの} ^{しきおり} 水辺に集う生き物や四季折々の

^{はな} ^{たの} ^{しみ} ^{ながら} ^{さんさく} 花を楽しみながら、散歩できる。

^{はる} ^{なつ} 春から夏に、カルガモの親子が

^み 見られることもある。



12 ^{かさいようすいしんすいすい} ^{むつぎ} ^{さんちようめ} ^{ぼん} ^{なかがわ} ^{よんちようめ} ^{ぼん} 葛西用水親水水路 (六木三丁目38番から中川四丁目1番まで)



^{みず} ^{はくく} ^{やちよう} 水が育む野鳥のごちそう



^{えどじだい} ^{のうごち} ^{かんがいよう} 江戸時代に農耕地の灌漑用につ

^く ^ら ^{れた} ^{ようすい} 水路。ゆったりとし

^{りゅうすいかんきよう} ^{こさかな} ^{そだ} ^{さかな} た流水環境に小魚が育ち、魚を

^{ほしよく} ^{とり} ^{すがた} ^み 捕食する鳥の姿が見られる。



区内のバードウォッチングポイント

バードウォッチングの基本



時間帯

鳥がよく動き、さえずりがよく聞こえる早朝がおすすめ

注意点

観察マナー (P5参照) を守ろう

両手があくようにリュック



長袖
長ズボン

持ち物

本冊子
「あだちの野鳥」

双眼鏡
(あればもっと楽しい!)

倍率 8~10 倍、口径 20 ~ 40ミリがおすすめ

P9の施設では貸し出しもしています



「ものさし鳥」を覚えよう

野鳥を大きさで見分ける際に基準となる鳥を「ものさし鳥」といいます。野鳥観察にとっても役立ちます。



スズメ
(約14.5cm)



ムクドリ
(約24cm)



ハト
(約33cm)



カラス
(約50cm)

「あだちで見られる野鳥」の見方 (凡例)

日本鳥類目録順に紹介しています。

写真

ものさし鳥で見た大きさ

この鳥が好む場所

このアイコンがあるバードウォッチングポイントをP8~11でチェック!



ヒドリガモ

カラスと同じくらい
オスは黄色みがかった額と茶色の頭、胴体は灰色。メスの体は他のカモのメスよりも赤っぽい。

冬
全長約49cm

主に見られる季節

大きさ
(平均的な成鳥)

特徴

カモ科



ヒドリガモ



全長約49cm

カラスと同じくらい

オスは黄色あたまみがかった額まいると茶色ひたいの頭ちやいる、
胴体どうたいは灰色はいる。メスの体からだは他のカモの
メスあかよりも赤あかっぽい。



マガモ



全長約59cm

カラスと同じくらい

オスは頭あたまが緑色みどりいろで、白い首輪しろくびわがある。
メスは全体的ぜんたいてきに褐色かつしよく。「グエッグエツ」
と鳴く。



カルガモ



全長約61cm

カラスと同じくらい

カモの仲間なかまでは珍めづらしく、オス・メス
ともに同じおなじいろ。一年中いちねんじゅう見みることがで
きる。「グエッグエツ」と鳴く。



ハシビロガモ



全長約51cm

カラスと同じくらい

オスは頭あたまが光沢こうたくのある緑色みどりいろで、メス
は体からだが明あかるめの褐色かつしよく。嘴くちばしがスコップ
のような形かたちをしている。

あ
だ
ち
で
見
ら
れ
る
野
鳥

カ
モ
科

★カモの仲間なかまは、冬ふゆは一般的いっぱんてきにオスが派手はでな色でメスは地味じみな褐色かつしよくです。

カモ科



オナガガモ



全長約75cm

カラスより少し小さい(尾羽を含めない場合)

オスは頭が黒褐色、胸は白色。メスは全体的に茶色で細かい模様がある。名前のおおりの、長い尾が特徴。



コガモ



全長約38cm

ハトと同じくらい

オスは頭が茶色で目のまわりが緑色。メスは全体が褐色で細かい模様。他のカモと比較すると小さい。



ホシハジロ



全長約48cm

カラスと同じくらい

オスは頭が赤茶色で、胸が黒色。メスは頭部から首と胸が褐色で、喉は淡い褐色。



キンクロハジロ



全長約44cm

ハトより大きい

オスは脇と腹が白く、その他は黒色。後頭に垂れ下がった冠羽※がある。メスは全体が黒褐色。

あだちで見られる野鳥

カモ科

カイツブリ科、ハト科、ウ科



カイツブリ

  通年

全長約26cm

ムクドリと同じくらい

オス、メス同色。夏は顔から頭頂、後頸が黒く、頬から首横は赤褐色。冬は夏より淡い色になる。



カンムリカイツブリ

  冬

全長約56cm

カラスと同じくらい

オス、メス同色。夏は顔から頭頂が黒い。顔の後方に黒と赤褐色の飾り羽。冬は顔の飾り羽がなく、冠羽も短い。



キジバト

     通年

全長約33cm

オス、メス同色

成鳥は頭部から背、胸からの体の下面はドウ色を帯びた灰褐色。幼鳥は全体に褐色。



カワウ

  通年

全長約81cm

カラスより大きい

オス、メス同色。全体に黒色で、背や雨覆は光沢のある茶褐色。嘴は白く口角は黄色。

あちで
見られる
野鳥

カイツブリ科
ハト科・ウ科

サギ科



ゴイサギ

  通年

全長約58cm

カラスと同じくらい

オス、メス同色。頭頂どうしよくから背せ、肩羽かたほねは紺色こんいろで、後頭こうとうには白く細長い飾り羽しるほそながかざほねが2本ほんある。



アオサギ

  通年

全長約93cm

カラスより大きい

オス、メス同色。額おおから頭頂どうしよくと顔ひたいから前首まへくびは白く、目の上めうえから後頭こうとうに黒線せんがあり、後頭こうとうに長い冠羽ながかんうがある。



ダイサギ

  冬

全長約89cm

カラスより大きい

オス、メス同色。全身純白ぜんしんじゅんぱく。夏なつは嘴くちばしが黒く、胸むねや背せに長い飾り羽ながかざほね。冬ふゆは嘴くちばしが黄色きいろくなり、眼先めさきも黄緑色きみどりいろになる。



コサギ

  通年

全長約61cm

カラスより大きい

オス、メス同色。全身ぜんしんが白く、1年中ねんじゅう嘴くちばしが黒い。夏なつは後頭こうとうに長い冠羽ながかんうが2本ほんあるが、冬ふゆは冠羽かんうがなくなる。

クイナ科・チドリ科



バン

🌊 🌙 通年

全長約32cm

ハトと同じくらい

オス、メス同色。頭から体の下の部分は黒色で、やや灰色みがある。上の部分は緑褐色で、脇には白い斑点がある。



オオバン

🌊 🌙 冬

全長約39cm

ハトより大きい

オス、メス同色。頭から体にかけて灰黒色で、嘴と額は白色。「キョン」「ピィッ」などと鳴く。



コチドリ

🌊 🌙 夏

全長約16cm

スズメと同じくらい

オス、メスほぼ同色。オスは夏は目のまわりの黄色いリングが目立つ。嘴は黒く、足は黄色。冬は全体に褐色になる。



メダイチドリ

🌊 🌙 春 秋

全長約19cm

スズメより大きい

オス、メスほぼ同色。夏は頭と胸が橙赤褐色で、冬はその部分が淡褐色になる。メスはオスに比べ色が淡い。

あ
だ
ち
で
見
ら
れ
る
野
鳥

ク
イ
ナ
科
チ
ド
リ
科

シギ科・カモメ科



タシギ



全長約27cm

ハトと同じくらい

オス、メス同色。嘴が長く、背中の模様が枯草に似ている。泥の上や浅い水中で、嘴を垂直にさしこみ餌を探す。



チュウシャクシギ



全長約42cm

ハトより大きい

オス、メス同色。下に湾曲した嘴を持ち、頭中央に淡い色の線がある。泥の上や浅い水中を活発に歩き、餌を探す。



イソシギ



全長約20cm

スズメより大きい

オス、メス同色。尾をよく振る。夏は上面が暗い緑褐色で、冬は羽縁が白っぽくなる。



ユリカモメ



全長約40cm

ハトより大きい

オス、メス同色。嘴は細く足は長めで、赤い。冬は頭から体の下まで白く、夏は頭が頭巾状に濃い焦げ茶色になる。

カモメ科



ウミネコ

   全長約47cm

カラスと同じくらい
オス、メス同色。尾の先に黒い帯がある。夏は頭から体の下面が白く、冬は頭に灰褐色の斑がある。



カモメ

   全長約45cm

カラスと同じくらい
オス、メス同色。頭が丸く、嘴は小さい。嘴と足は黄色く、夏は頭が白くなる。



セグロカモメ

   全長約61cm

カラスより大きい
オス、メス同色。冬は頭から胸に灰褐色の点々がたくさんあり、体の下は白い。夏は頭から胸が白くなる。



オオセグロカモメ

   全長約64cm

カラスより大きい
オス、メス同色。セグロカモメに似ているが、成鳥の上面は濃い灰色。冬は頭から胸に灰色の斑がある。

カモメ科・タカ科



コアジサシ



全長約28cm

ムクドリと同じくらい

オス、メス同色。額は白く、頭から首の後ろ、目の横の線が黒い。嘴は細く、頭頂部はやや扁平。



トビ



全長約59cm

カラスより大きい

オス、メス同色。M形に切れ込んだ尾を持つ。成鳥は全体に茶褐色で、淡褐色の斑がある。



ツミ



全長約30cm

ハトと同じくらい

オスは額から体の上面が暗い青灰色で、顎より下の体は白く、淡い橙色。斑がないものとあるものがある。



オオタカ



全長約50cm

カラスと同じくらい

オス、メスほぼ同色。頭の上から体の上面は暗い青灰色で、足は黄色。

区内での観察は舎人公園がおすすめ！

カワセミ科、キツツキ科、ハヤブサ科、モズ科



カワセミ

  通年

全長約17cm

スズメと同じくらい

オス、メスほぼ同色。頭あたまから体からだの上面じょうめんにかけて鮮あざやかな青緑色あおみどりいろで、胸むねから下したは橙色だいだいいろ。嘴くちばしが大きいおお。



コゲラ

 通年

全長約15cm

スズメと同じくらい

オス、メスほぼ同色。額ひたいから体からだの上面じょうめんは茶褐色ちやかっしょくで、翼つばさはやや濃い褐色こ。オスこうとうの後頭りょうわきの両脇あかには、赤あかい斑まだらがある。



チョウゲンボウ

  通年

全長約33cm

ハトより大きい

オスは頭あたまと尾おの上面じょうめんが青灰色あおはいいろで、メスどうちようは額からだから体じょうめんの上面たんかっしょくは淡褐色たんかっしょく。ひらとひら飛ていくうび、よく低空飛翔ひしようをする。



モズ

 通年

全長約20cm

スズメより大きい

オスは額ひたいから後首うしろくびにかけて茶褐色ちやかっしょくで、体からだの上面じょうめんは青灰色あおはいいろ。メスどうちようは体からだの上面じょうめんが褐色かっしょく。

あちちで見られる野鳥

カワセミ科・キツツキ科
ハヤブサ科・モズ科

カラス科、シジュウカラ科



オナガ



通年

全長約36cm

ムクドリより大きい

オス、メス同色。頭が黒く、翼と尾が青灰色で、尾が長い。「ゲェーイゲェーイ」「ギューギュー」と鳴く。



ハシボソガラス



通年

全長約50cm

オス、メス同色。

全身が黒色で、青紫色の光沢がある。ハシブトガラスよりも小さく、嘴は細め。



ハシブトガラス



通年

全長約56cm

オス、メス同色。

全身が黒色で、青紫色の光沢がある。ハシボソガラスよりも大きく、嘴は太く大きく湾曲している。



シジュウカラ



通年

全長約14cm

スズメと同じくらい

オス、メス同色。黒い頭と白い頬。胸から腹にかけて、ネクタイをしめているような黒い模様がある。

あだちで見られる野鳥

カラス科
シジュウカラ科

ヒバリ科、ツバメ科、ヒヨドリ科



ヒバリ



全長約17cm

スズメと同じくらい

オス、メス同色。頭に冠のような羽がある。頭から体の上面は茶褐色で、黒褐色の斑がある。



ツバメ



全長約17cm

スズメと同じくらい

オス、メスほぼ同色。額と喉が赤い。頭の上から体の上面は紺色から黒色。体の下面は白または淡褐色。



イワツバメ



全長約14cm

スズメと同じくらい

オス、メス同色。額から体の上面は紺色の光沢の混ざった黒色。顎から下は足まで白い羽毛におおわれている。



ヒヨドリ



全長約27cm

ハトより小さい。

オス、メス同色。全身が灰褐色で、額から首の後ろはボサボサしている。「ピーヨピーヨ」と甲高い声で鳴く。

あちで
見られる
野鳥

ヒバリ科・ツバメ科
ヒヨドリ科

ウグイス科、メジロ科、ヨシキリ科、セッカ科



ウグイス



通年

全長約16cm

スズメと同じくらい

オス、メス同色。額から体の上面は緑灰褐色。春は「ホーホケキョ」、冬は「チャッチャ」と鳴く。



メジロ



通年

全長約12cm

スズメより小さい。

オス、メス同色。額から体の上面は黄緑色で、顎から喉、尻からは黄色。目のまわりが白い。



オオヨシキリ



夏

全長約18cm

スズメと同じくらい

オス、メス同色。上面は灰褐色で、下面は淡い褐色。嘴は黒褐色で長め。ヨシの生えた湿地を好む。



セッカ



通年

全長約12cm

スズメより小さい。

オス、メスほぼ同色。「ヒッヒッヒッ」と鳴きながら上昇し、「チャッチャ、チャッチャ」と鳴きながら下降する。

あだちで見られる野鳥

ウグイス科・メジロ科
ヨシキリ科・セッカ科

ムクドリ科、ヒタキ科



ムクドリ



通年

全長約24cm

オス、メスほぼ同色。

オスは頭から胸が黒褐色で、メスよりも黒味が強い。橙色の嘴と白い頬が目立つ。



シロハラ



冬

全長約24cm

ムクドリと同じくらい

オス、メスほぼ同色。オスは頭が暗い灰褐色で、背以下の上面、腹から脇は灰色または灰褐色。



ツグミ



冬

全長約24cm

ムクドリと同じくらい

オス、メスほぼ同色。目の上の白い筋模様が目立つ。翼を下げ、胸を反らせて地面に立つ。



ジョウビタキ



冬

全長約15cm

スズメと同じくらい

オスは頭の上が灰色で、額、顔、喉、背、翼が黒褐色、胸以下は赤橙色。メスは頭から上面が灰褐色で下面は淡褐色。

あちちで見られる野鳥

ムクドリ科
ヒタキ科

ヒタキ科、スズメ科、セキレイ科



イソヒヨドリ

通年

全長約25cm

ムクドリと同じくらい

オスは頭から胸、背からの上面、尾羽は青色。下面は赤褐色。メスは全身灰褐色で、上面には青みがある。



コサメビタキ

春 秋

全長約13cm

スズメと同じくらい

オス、メス同色。頭が暗い灰褐色で、背以下の上面、腹から脇は灰色または灰褐色。



スズメ

通年

全長約14.5cm

オス、メス同色。

頭と背は茶色で、顔と腹は白い。人の住むところにはどこでも見られ、種子などを食べる。



ハクセキレイ

通年

全長約21cm

ムクドリより小さい。

長い尾を上下に振る。オスの背は、夏は黒くなる。主に川や海岸に住み、昆虫などを食べる。

あだちで見られる野鳥

ヒタキ科・スズメ科
セキレイ科

セキレイ科、アトリ科



セグロセキレイ  通年

ムクドリよりちいさい。全長約21cm
 オス、メスほぼ同色。頭の上から体の上面、胸にかけて黒色。尾は黒く、外側が白い。濁った声で鳴く。



タヒバリ  冬

スズメと同じくらい。全長約16cm
 オス、メス同色。夏は頭から体の上面は灰褐色、顎から下が淡い橙褐色。冬は頭から体の上面が褐色、顎から下が淡褐色。



カワラヒワ  通年

スズメと同じくらい。全長約14cm
 オスは顔が黒っぽく、頭は黄緑褐色。背以下の上面、胸以下の下面は茶色がかかった緑色。メスは頭が灰褐色。



シメ  冬

スズメより大きい。全長約19cm
 オスは眼先から顎が黒く、頭は淡い茶褐色。メスはオスよりも褐色みが強く、眼先から顎は灰黒色。嘴が太い。

あちで
見られる
野鳥

セキレイ科
アトリ科

ホオジロ科



ホオジロ



全長約16cm

スズメと同じくらい

オス、メスほぼ同色。頭の上から体の上面、胸にかけて茶褐色。眉斑・頬・喉が白い。



アオジ



全長約16cm

スズメと同じくらい

オスは顔が黒く、頭の上から体の上面は暗い灰緑色で、顎より下は黄色。メスは頭の横の線が黒褐色。



オオジュリン



全長約16cm

スズメと同じくらい

オスは夏は頭、顎から胸は黒色で、首回りから下面は白い。メスは頭から体の上面が淡い褐色。

足立区の野鳥についてもっと知りたい人は



足立区のホームページから「足立区野鳥生息調査報告書」「動画：あだちの野鳥(動画配信サイトへリンク)」などを見ることができます。
※本冊子では平成22年度から令和元年度までの10年間の調査で5年連続して確認できた野鳥のみを掲載しています。

さくいん

アオサギ	16	シメ	27
アオジ	28	ジョウビタキ	25
イソシギ	18	シロハラ	25
イソヒヨドリ	26	スズメ	26
イワツバメ	23	セグロカモメ	19
ウグイス	24	セグロセキレイ	27
ウミネコ	19	セッカ	24
オオジュリン	28	ダイサギ	16
オオセグロカモメ	19	タシギ	18
オオタカ	20	タヒバリ	27
オオバン	17	チュウシャクシギ	18
オオヨシキリ	24	チョウゲンボウ	21
オナガ	22	ツグミ	25
オナガガモ	14	ツバメ	23
カイツブリ	15	ツミ	20
カモメ	19	トビ	20
カルガモ	13	ハクセキレイ	26
カワウ	15	ハシビロガモ	13
カワセミ	21	ハシブトガラス	22
カワラヒワ	27	ハシボソガラス	22
カンムリカイツブリ	15	バン	17
キジバト	15	ヒドリガモ	13
キンクロハジロ	14	ヒバリ	23
コアジサシ	20	ヒヨドリ	23
ゴイサギ	16	ホオジロ	28
コガモ	14	ホシハジロ	14
コゲラ	21	マガモ	13
コサギ	16	ムクドリ	25
コサメビタキ	26	メジロ	24
コチドリ	17	メダイチドリ	17
シジュウカラ	22	モズ	21
		ユリカモメ	18

ぼくたちに
会えたら
ラッキーかも？

かわせみ



発行

足立区 環境部 環境政策課
〒120-8510 足立区中央本町 1-17-1
電話 03 (3880) 5860 / FAX 03(3880)5604
令和8年1月 第5刷発行



足立区は持続可能な開発目標 (SDGs) を支持しています。

